

# 令和5年度可燃ごみの内容物調査結果

## 1 目的

可燃ごみについても、資源の混入状況等を把握するため、内容物を調査する。今回の調査では、市街地、郊外、集合住宅といった様々な家庭からの排出を調査するため、市内6地区を対象とした。

## 2 方法

各ステーションでゴミ袋を袋の外から確認。袋ごとに資源の混入の有無を確認し、袋数を計上。

<調査日>

6月12日(月)、13日(火)

<収集場所>

市内某6地区(E・F・G・H・I・J)

<調査対象資源>

新聞、ダンボール、雑がみ、牛乳パック、布類、ペットボトル、トレイ類、プラスチック製容器(食品用)、発泡スチロール、アルミ缶・スチール缶、その他缶類、びん類、発火性危険物、小型家電、乾電池、水銀使用廃製品、小型充電式電池

## 3 結果

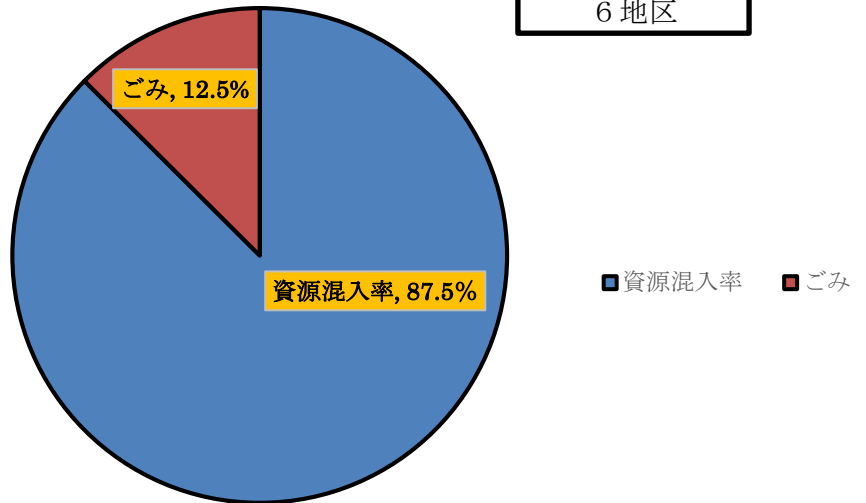
### (1) 全体の分析

ゴミ袋に入っていたごみを調査したところ、調査対象ゴミ袋367袋中、321袋に何らかの資源が混入しており、資源混入率は約88%であった。

資源の中で多く袋に混入していたのは、雑がみとプラスチック製容器(食品用)であり、それぞれ180袋以上排出されていた。6地区のいずれの収集場所においても、その他の資源よりも多く排出されていることが確認できた。

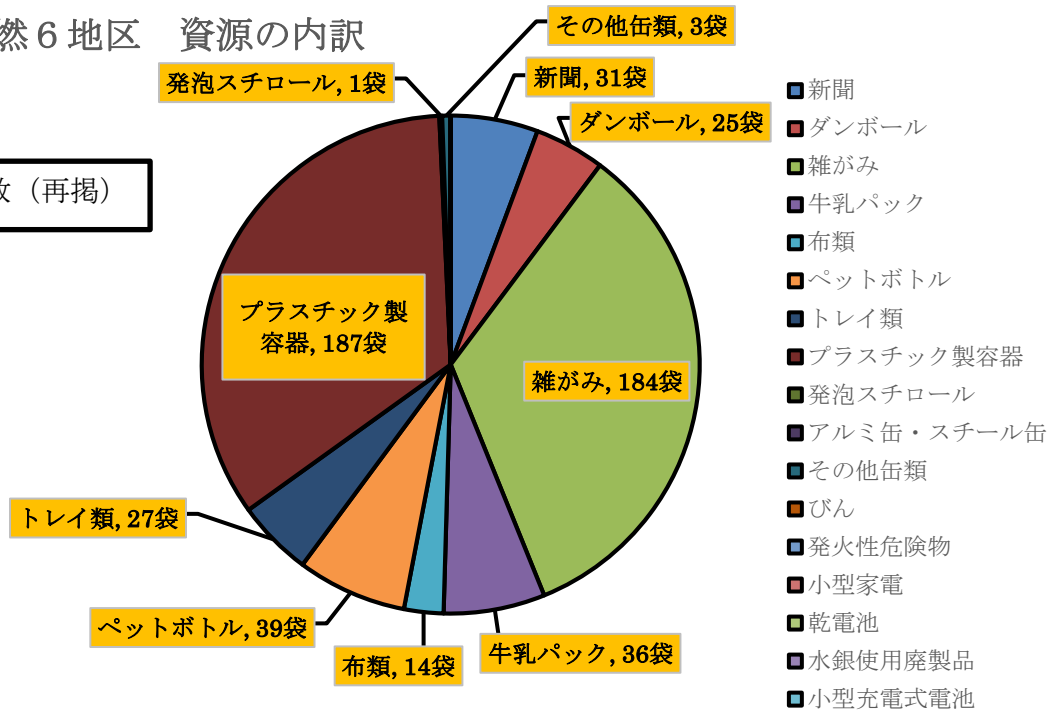
## ごみ袋内に入っていた資源の混入率

6 地区



## 可燃 6 地区 資源の内訳

袋数 (再掲)



調査を実施した収集場所の状況

・ E 地区



・ F 地区



・ G 地区



・ H 地区



・ I 地区



・ J 地区

